アカエゾマツ

マツ科
トウヒ属
樹高
30～40m

四季の観察ポイント

アカエゾマツは北海道を代表する針葉樹で、エゾマツと共に「北海道の木」に選定されています。

エゾマツと比べて樹皮が粗く赤いことからアカエゾマツの名前がつきました。

湿原に近い場所や砂地、岩場など他の樹種が育ちにくい場所でも自生しますが、成長が非常に遅く、また暑さには弱いです。特殊な土壌の場所や湿原などで純林を形成することもあります。

リンゴの絵日記

アカエゾマツとくらしとのつながり

アカエゾマツの材は均質で緻密で美しく、ピアノの響板など高級楽器材として重宝され、かつては国産ピアノの主流でした。その後天然アカエゾマツ原木の減少により、輸入材に代わりましたが、近年再びピアノ材として活用すべく、地元や行政、企業が協力してアカエゾマツの手入れを進めています。

また抽出された精油はアロマの他、その抗菌効果が獣医医療へ応用されることが期待され、研究が進んでいます。

樹形が美しく葉が他のマツと比べて小さいため、盆栽の世界でも重宝されています。

アイヌ民族とアカエゾマツ

アカエゾマツはアイヌ語でイウォロスンク（＝山奥のエゾマツ）と呼びます。チカプスンク（鳥のエゾマツ）と呼ぶ地域もあります。弦楽器のトンコリの材料にも使われます。